

王女が生れ… (661)

おおくのひめみこ
661年、大伯皇女誕生

熟田津に 船乗りせむと 月待てば
潮もかなひぬ 今は漕ぎ出でぬ

百済からの援軍要請に応じ、斉明女帝を総帥に
なかのおえのおうじ (後に天智天皇)、実弟大海人皇子
(後に天武天皇)らの大軍隊(400隻の船、約三
千人)が出陣。熟田津(現在の道後温泉あたり)
付近に滞在したこのとき、大島沖の船上にて
大海人皇子の妃が大伯皇女を出産。

出軍のとき、額田王が天皇の意を汲んで
よんだ歌。(万葉集の代表的な歌)



大伯(大来)皇女
おおくのひめみこ



航海技術に乏しかった地乗り航海の時代、陸に近い風待ち、潮待ちの港であり、
また自然の孤城ともいえる大島は海の要衝として権力者に重宝され、早くに天皇領
となった。歴史的に中央政権のかかわりのなかで育んだ風土や環境から村上義弘
のごとき海上の覇者が生れたと言える。

全盛期、金島として栄える(江戸時代)

江戸時代、大島全盛期。

朱印船貿易が盛んとなり大島にも千石船がたくさん繁留。
海運業や漁業が栄え、その繁栄ぶりは西条藩随一といわれ、
黒島とともに「金島」と呼ばれた。1636年、西条藩三万石が成
立。初代藩主は一柳氏、1671年から松平氏。西条藩主が参勤
交代の折に宿泊した村上邸(庄屋)は今も残る。

こんな豪傑もいた!

伝説の力持ち。石鎚嶋之助(白山新三郎)
(1692-1745)、194cm189kg 足34cm。
紀州お抱えの相撲取りの後、大島に戻って
村の子らに読み書きなどを教えた



オランダまで
足をのばした
村上武左衛門
(江戸時代)



王子を育んだ…(1330年代)

南北朝時代。
村上水軍が活躍

瀬戸内海の雄であり村上水軍の祖・村上義弘は南朝を支持し、後醍醐天皇のこ
子息、懐良親王を10才頃に大島で守護する。後に懐良親王は、明の洪武帝
から日本国王の称号を受ける活躍をして九州を治めた。

幼少時(10歳頃)、懐良親王が眺めたであろう大島の
風景や人情はいかなるものであったろうか。



祈りの島

楠木正成らと並ぶ南朝の忠臣の一人、新田義貞の実弟の脇屋義助が今
治で敗れた際、村上義弘は侍女たちを新居大島へ連れてきてかくまう。

後に侍女たちは尼となり、敵味方なく倒れた侍達のために祈りを捧げたその場所を比久尼の磯と
呼ぶ。比丘尼が奇跡的に海中に発見した瑠璃色薬師如来(源平合戦から150年間沈みさまよった
と推測される)は島の吉祥寺の薬師堂に安置されている。
その他いくつもの神社仏閣が現存する。小さな島にもかかわらず、海賊衆らをはじめ多くの祈りが
捧げられてきたことがよく分かる。

再生の息吹

- 2000年 地域通貨を活用した地域福祉に取り組む。
愛媛県工業技術センターの開発した微生物を活用した
生活雑排水の浄化に取り組む。
- 2004年 特産品である大島白いもを活用しての地域おこしに取り組む。
畑のオーナー制、白いもを用いた芋焼酎の製造、販売が始まる。
- 2006年 地域づくり総務大臣表彰を受け、新たな大島物語が始まる。
- 2017年 大島サイクリングプロジェクト始まる。
- 2019年 大島沖にて「海賊の海中熟成酒プロジェクト」始まる。



2012年に
小泉進次郎さんが
新居浜市大島を訪れ
白いもの収穫体験を
されました

1 皇子を助け、大島にかくまう



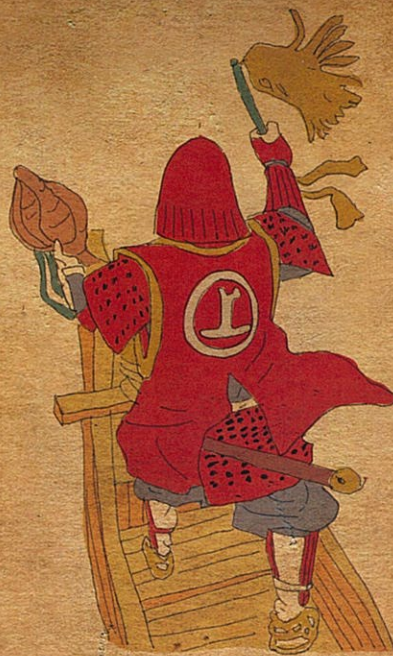
南北朝の動乱の時代、後醍醐天皇のご子息、懐良親王を紀州から九州へ護送する際、新居大島で一年間守護した(1338年)。懐良親王はその後九州に渡り南朝征西府を樹立、約12年間治め、明の洪武帝より日本国王の称号も授かった。征西府による海外貿易、また倭寇が朝鮮や中国へ進出したが、海の長、村上義弘が大きな働きをした。

二人は主従関係を越える太い絆でつながり
命運を共にしていった。
親王が10才、村上義弘が30才の頃大島で共に過ごす。

2 河野氏を助け伊予を守る

伊予は南朝の重要拠点として河野通朝が治めていたが、北朝の細川氏が攻めてきて1364年に敗れる。
村上水軍は息子の河野通直を助け共に4年戦い、1368年に河野氏が伊予の国を再び奪取した。

大島のヒーロー！ 村上水軍の海賊大将



村上義弘

(1308-1377年頃)

始祖、清和源氏村上仲宗から直系9代、村上義弘は歴代にわたる海運の操船術と、稀代の指導者として伊予を治める河野通盛が率いる伊予水軍の長として、瀬戸内の制海権を握る水軍の覇者になった。
新居大島、越智大島に居住しつつ活躍の場は周防、九州まで及んだ。南朝を支えた海の雄であり、200年隆盛する三島村上水軍の祖である。
新居大島が生誕の地と伝承されている。

3 三島村上水軍の祖

“水軍の祖”と呼ばれる海賊がなぜ新居大島で生まれ育ったのか？昔は船が小さく、陸地沿いの航海だったため、陸から近い新居大島は貯蔵の島、そして航海の要衝でした(その後は技術が発達し、沖合い航路となった)。

海賊大将として活躍した村上義弘であったが嫡男「信清」は幼少だったため(※魚島に渡ったが後で新居大島に帰還したとされる)1377年、村上師清が信濃から来てその後釜に据わる。制海権を掌握した師清が長男「義頼」を能島、次男「頼忠」を来島、三男「頼長」を因島(※村上義弘の娘「お竹」が嫁ぐ)に配置、そこから三島村上水軍がはじまったとされる。

毛利元就の三本の矢(の話の元)

200余年の村上水軍の繁栄(能島、来島、因島の3家が互いに協同して黄金時代をきずいた)に毛利元就があこがれて、一族に残した三本矢伝説の教訓。毛利、吉川、小早川の三家が三つ矢となり隆盛せよと説いた。



海賊のロマン

1369-1377の8年間、村上義弘の消息が不明。
実は…伊予の河野氏復讐を成し遂げた後、征西府へ帰り、
懐良親王の命をうけて
明国へ渡ったのではないか!?
日本内地で足跡が残っていない
ところをみるとそのようにしか考えられない。
(※歴史家、森本繁氏による小説的推測)



南海に水軍王国が…!?
興味のある方、オススメ!

征西府秘帖
(村上義弘と南海水軍王国)

森本 繁

※南海…今で言う南シナ海、太平洋西部の東南アジア10か国に囲まれた海域の名称です。

新居大島の秘密

其三 海賊とはの巻

もとは朝廷への貢物を奪うといった海の盗賊だが時代とともに形を変える。大和～鎌倉時代は海の警護も兼ねた海賊衆と呼ばれる。南北朝～戦国時代は領主や幕府の軍事組織に編成され水軍的な役割を担う。海賊禁止令(1585年)により海賊は姿を消し水軍がこれにかわる。

「Samurai」や「Ninja」に続く日本独自の歴史文化の名詞として今治市・尾道市は「Kaizoku」を提唱、「村上海賊」は2016年に日本遺産として文化庁により認定された。パイレーツの「奪う」やネイビーの「襲う」ではなく、そのキーワードは「守る」。航海の安全、祖先からの穏やかな暮らしや信仰、大名顔負けの優雅な文化や美しい瀬戸内海の風景を守ることがその本懐と言える。

大名顔負けの文化的な薰り (香も、茶も、連歌も優雅に愛でた！)

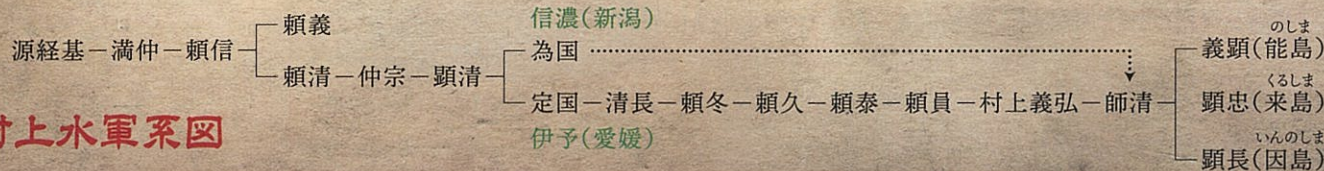
大山祇神社法楽連歌は中世200年以上にわたって海賊衆が折に触れて詠んだ句で、武将から無名の庶民まで3万句が現存する。海上では人間の本質だけが人と人の信頼を作る。海賊衆の高い教養と文化力を知ることができる。

村上水軍

新居浜の大島に京都から下級貴族の村上氏が配置され居住。藤原純友の乱(939)のとき、朝廷から討伐命令をうけた越智氏の家来になって戦い手柄をたてる。村上氏子孫の仲宗が、清和源氏の源頼清の養子となって朝廷に仕える。その子孫三代目で信濃と伊予に分かれ、伊予の村上氏が先祖にゆかりのある新居大島(新居浜市)や越智大島(今治市)を縄張りにする。

海の武士団としての治安維持、水先案内人としての航海の補助という海賊衆の伝統を継承したのが伊予の越智氏で、その配下にあったのが河野水軍、村上水軍。合わせて伊予水軍とも呼んだ。

村上水軍系図



既存のルール

チャレンジ

陸におさまらず海で自在に生きた男ども

ヒーロー!?

平安～南北朝の時代、貴族や大寺社など特権階級が肥え太る一方、農民や漁民らは重税と飢餓により困窮…。海を舞台に活躍し、時には権力に逆らいながら略奪物資を彼らにも分け与えるヒーロー的な存在でもあった。

そもそも

海賊(水軍)が歴史を動かした

そもそも日本国は中国、朝鮮から海を渡ってきた人々によって樹立された水軍国家とも言える。源平合戦に源氏が勝ったのも、後醍醐天皇が北条政権を倒したのも、足利尊氏が湊川で楠木正成を討ち取り、室町幕府を樹立したのも水軍のおかげ。

日本の歴史の転換期には水軍の力が大きくはたらいた。既存の生活や戦いにパラダイムシフトを起こした、画期的な存在だったと言える。



大島の史跡

愛媛県、新居浜市の東の端、荷内地区の沖約1.5kmに浮かぶ全島一周約8kmの島。市内から陸続きになった黒島から渡海船が出ている(所要時間15分)。大島は全島が海城といわれ、南端には新居大島城址があり、村上水軍の祖・村上義弘による南北朝期の築城とされる。現在も大島には、軍船を隠した「船かくし」や合図を送った「のぼり立て」、狼煙を上げた「明火」、河野通有が奉納したと言われる「神田」など、当時を偲ぶ多くの地名が残っている。



記録	史跡名	概要
①	八幡神社 (宗像神社合祀)	貞観元年(西暦859年)創立。現在の本殿は元禄5年壬申8月11日(西暦1692年)建立。
②	大元神社 (厳島神社合祀)	欽明天皇時代(西暦500年代)創立。現在の建物は鎌倉時代の物と言われ建立年月日は不明。現在新居浜市文化財に指定されている。
③	村上義弘神社 比沙門天	大元神社の東側にある。創立不詳。七福神をまつてある。西側に上野若狭守の墓がある。昔の領主の墓とも言われている。
④	吉祥寺	真言宗。安永9年(西暦1780年)創立。本尊比沙門天弘法大師像。薬師堂。本尊薬師如来(目ひき大師)島ノ助供養塔。
⑤	願行寺	浄土宗。天正元年(西暦1573年)創立。本尊阿弥陀如来(阿弥陀三尊)。伝説として幽霊の片袖あり。
⑥	地藏堂	本尊百体地藏菩薩(木食上人作)。延享2年(西暦1745年)大島に渡る。
⑦	御番所跡	江戸時代初期に設けられた。(福島支配下)
⑧	住吉神社	創建奈良時代。現在八幡神社境内五社に合祀されている。
⑨	のぼり立て	平安時代から江戸時代における信号所。
⑩	トンコロ場	江戸時代コレラ(トンコロ病)等はやり病で亡くなった人の土葬場。
⑪	船かくし	水軍船つなぎ場(監視船)。
⑫	明火	奈良時代から昔の灯台替わりとして火がたかれていた。
⑬	皇子山	護良親王の仮宮。護良親王が忽那島に行かれるまで守護した。
⑭	神田山	河野通有が文永・弘安の役に大勝し、その御礼として鎧やかぶと、太刀と共に神田山を神社に献上した。
⑮	帆立	信号所。西条藩主が帰国される時、讃岐の岬を越えられと垣生苦立、御代島に信号を送った。
⑯	船くぼ	昔の造船所跡。軽皇子と軽皇女の悲恋。大島に漂着し後土居町へ?
⑰	本丸跡	トンコツ峠。
⑱	武者洗跡	ざんごう跡あり。村上左衛門太夫の砦跡という。
⑲	城観音堂	
⑳	二の丸跡	
㉑	水軍団跡	大島で一番古い城があったと言われる。(ダンの上)。
㉒	比丘尼磯(ササ)	脇屋義助の侍女が尼となりこの磯の上で平和を祈り、敵、味方の霊を弔ったと言われる。又、明治の初めオヤナという人が身を投げてからオヤナ磯といわれるようになったと言う。
㉓	ばくちの木群生	市指定天然記念物。幼木の時はいくつかの葉をつけているが成長するにつれて、うるこのように一枚一枚はげ、木の幹が赤くなる。丁度ばくちをして負け、一枚一枚着物を脱いでだかになる意味を表している。大島では赤木と呼ばれている。

大島史跡案内図



(大島公民館発行に加筆)

【その他】

○とうどおくり 市指定無形文化財

○旧庄屋(村上佐七郎邸)

○石鏡島之助霊碑(⑥地藏堂うら山墓地の頂上付近)

参照「大島物語」